

様式2 - 1【都道府県・指定都市教委用】

平成20・21年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業研究成果報告書

都道府県・指定都市番号	27
教育委員会名	大阪府教育委員会

1 研究課題

(1) 研究課題

- ・我が国の伝統文化（邦楽・茶道・和装・礼法等）の学習活動を教育課程に位置付けた上で、シラバスや教材の作成，効果的な指導方法について，実践研究を行う。
- ・各学校での伝統文化に触れる機会の充実を図るため，地域在住の外部人材（社会人講師等）や専門家，また老人会等の団体との効果的な連携方法について研究を行う。
- ・学校間交流を含めた取組，地域的な取組へとさらに発展させるために，学校間（小学校・高等学校・支援学校等）の連携方法について研究を行う。

(2) 研究課題設定の理由

- ・高等学校学習指導要領総則においては，「伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」ことが示されており，学校教育の中で，我が国や郷土の伝統や文化に触れる機会を持つことで，それらに対する認識を深め，尊重する態度を育成することは時宜にかなった教育活動であると考えます。
- ・邦楽・茶道・和装・礼法などの指導において，児童・生徒が，専門家の指導を受ける機会を持つことは，非常に有益である。そのためには，外部人材や団体等を有効に活用する必要がある。また，人材のみならず邦楽においては和楽器などを円滑に調達できる環境を整えることも必要である。
- ・校種を超えた交流を行うことにより，発達段階に応じた指導内容や指導方法を互いに研究することで，各学校における教育活動に生かすことができる。また，支援学校での取組状況を共有することにより，各モデル校が，障がい者理解につなげることも期待できる。

2 モデル校名

大阪府立かわち野高等学校
大阪府立桃谷高等学校
大阪府立交野支援学校
富田林市立向陽台小学校

3 研究内容及び具体的な研究活動

邦楽・茶道・和装・礼法などの分野において，児童・生徒が，我が国の伝統文化に親しみ，理解を深めることができるよう，音楽などの教科・科目のほか，総合的な学習の時間や学校設定科目等においても指導内容，指導方法，教材開発についての実践研究を行った。

また，地域の人材を活用した邦楽や茶道などの体験学習を実施した。さらに，プロの落語家など本物に触れることにより，児童・生徒の伝統文化に対する興味・関心・理解を深めるとともに，伝統や文化を尊重する態度をはぐくむことができた。

4 研究成果の普及

本府における伝統文化を尊重する教育を一層推進するため，「大阪府伝統文化教育推進協議会」を設置し，協議会を開催した。各モデル校から，取組の成果と課題を含めた実践報告を受け，各校で情報共有するとともに，研究協議の内容等について，学識者から指導・助言を受けた。また，各校においては，公開授業を実施したり，Webページに掲載するなど，その研究成果の普及を図った。

5 今後我が国の伝統文化を尊重する教育をより発展させるために

この2年間の実践の成果と課題を明らかにし，課題に対する改善方策を立てた上で，今後の取組に生かすことが必要である。

また，各モデル校においては，この2年間で根付いた取組を今後も継続・発展させることに努めなければならない。

府教育委員会としては，本事業の実践の成果として，伝統文化に触れることを通して生徒がどのように感じ，どのように変容したのかを，Webページに掲載するとともに，さまざまな場面を通して伝えていきたいと考えている。

様式2 - 2【実践モデル校用】

平成20・21年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業研究成果報告書

ふりがな 学校名	おおさかふりつかわちのこうとうがっこう 大阪府立かわち野高等学校
-------------	-------------------------------------

校長名：高橋 賢一

電話番号：072-963-7002

学校の概要

1 学校・地域の特色

本校は、平成16年4月に盾津高校と加納高校が再編整備され、普通科総合選択制の学校として開校し、学校独自のエリアや選択科目を開講している。また、本校が位置する東大阪市は盆踊りや地車などが盛んで、伝統芸能に親しむ素地が幼い頃より根付いている。

2 学校の概要

課程	学科	1年		2年		3年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	普通科	7	292	7	263	7	258	21	813

研究の内容及び成果等

1 研究主題

(1) 研究主題

「音楽」「音楽」における和楽器授業の在り方及び外部講師との連携について

(2) 研究のねらい

「音楽」での篠笛や「音楽」での祭り囃子など、多様な音楽の学習や体験を通して、我が国の伝統文化を理解し、尊重する態度をはぐくむ。

2 本年度における研究の取組概要等

(1) 取組の概要

祭囃子を通して、地域ごとに培われた祭りについて体験し、我が国の伝統的な文化に興味関心を持たせる。

実際に演奏活動されている方を講師に迎え、その演奏を鑑賞することを通して、伝統的な音楽の音色や音楽文化に触れる機会を提供する。

生徒が生涯を通して、篠笛や和太鼓を愛好できる心を育て、伝統が引き継がれるようにする。

(2) 教育課程上の位置付け

1年生の必修選択科目として「音楽」2単位、2年生での選択科目として「音楽」2単位、「音楽」2単位。

(3) 指導の実際

2学期に各講座につき10時間ずつ授業を行った。講師の先生にはその内の6時間ずつ来ていただい

た。今年度は特に教員が中心となり授業を進め、講師の先生に助言していただく形態で行った。

3 成果と課題

篠笛の授業も3年目となり、篠笛用の教科書も改良を重ね使用してきた。今年は2年生の祭り囃子を中心として行った。1年生の篠笛のみの授業と違い、平太鼓が入ったので心配ではあったが、授業の最後には全員が「馬鹿囃子」をグループで演奏することができた。指導方法について今年度は、「音楽教師が中心となった授業」に力を入れて取り組んだ。初回の「篠笛の演奏法」と「平太鼓の打ち方」などについては、講師の先生に中心となっていただき、その後の練習は、講師の先生と打ち合わせをしながら教師が中心となって進め、補足していただく形式にした。また2時間連続の授業のため、篠笛を吹き続けるのが難しいと考え、1時間はプリントや映像を使用した授業に切り替えるなど、生徒の集中力が続くよう工夫した。担当教員が慣れてきたこともあり、授業の流れができ、計画通りに進めることができた。

講師との連携については、それぞれの役割分担が明確になったことで、今年度は招聘の回数を抑えることができた。しかし演奏法については、講師の先生の方がより分かりやすく生徒にも好評だったので、できるだけ多くの時間来ていただけるのが望ましいと考える。ただ招聘にかかる費用を通常の学校予算で得ることは難しく、その点が今後の課題である。

生徒の意識については、1年生の時よりは取り組む姿勢がよくなったが、できないとあきらめてしまう生徒も少なからずおり、その生徒への対応の工夫が課題である。しかし最後の発表の時には、しっかりと祭り囃子が演奏できた。2年間研究授業を行って感じたことだが、篠笛や平太鼓の技術や魅力を伝えることは、1ヶ月間あっても時間がたりず、とても難しかった。箏や三味線などでは、もっと時間がたりないのではと感じられる。

日本の伝統楽器に触れることは、生徒の情操をはぐくむ上で意義のあることであり、もっと楽器に触れる時間が確保できるようになればと思う。その為には楽器の確保や保存にかかる費用などを、学校全体の予算で組むことも必要である。また教師が篠笛などの伝統楽器や文化について、より深い知識と高い技術を持ち、生徒にその魅力を伝えることが重要となる。

教科等	芸術	学年	2年	単元名	音楽
単元のねらい		祭り囃子の演奏を通して、地域と共に発展した伝統音楽を知る			
取り扱う伝統文化		篠笛と平太鼓による祭り囃子の演奏 「馬鹿囃子」			
単元の概要 1年生で取り組んだ篠笛の「さくら」の演奏を踏まえて、2年生では平太鼓を取り入れ、篠笛と平太鼓による「祭り囃子」の演奏を行い、地域の伝統行事とともに発展した伝統音楽について学ぶ。					
単元の指導計画（全10時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			教師の指導・支援、取組体制（外部人材の活用等含む）等	
2	講師と音楽教師による模範演奏 「馬鹿囃子」の演奏鑑賞と、「馬鹿囃子」の演奏された時代背景や、地域の歴史 「馬鹿囃子」の篠笛パートの演奏指導			講師と音楽教諭による模範演奏，歴史などの講義 講師と教員による篠笛の演奏法指導	
2	前回の復習 「馬鹿囃子」の篠笛パートの演奏の復習 「馬鹿囃子」の平太鼓パートのリズム練習（割り箸と机を使用）			篠笛パートで吹きにくい部分のある生徒に対しての援助・指導 平太鼓パートのリズムを共に演奏しながらの指導	
2	前回の復習 「馬鹿囃子」の平太鼓パートの練習 グループごとに実際の平太鼓を使用しての練習 篠笛パートと合わせての練習			平太鼓パートのリズムで難しい部分のある生徒に対して援助・指導 実際の平太鼓の叩き方を共に演奏しながらの指導	
2	グループごとに平太鼓と篠笛を合わせる練習 最後まで合奏できるようにする			篠笛や平太鼓の入るタイミングを共に演奏しながら指導 グループごとへの援助・指導 実技試験に向けての準備・練習	
2	全員による「馬鹿囃子」の練習 全員の前でグループごとにテストを行う			グループごとに全員の前で構え方から「馬鹿囃子」の演奏を披露する	
本事例による成果と課題 (1)外部講師との連携について 今回は、初回の演奏法については講師の先生に中心となっていたが、それ以外では音楽教諭が中心となって授業を展開し、講師の先生が補助に入っていたが形式で進めた。打ち合わせをしっかりと行い、また授業中も的確に助言をしていただけたので、スムーズに行うことができた。 (2)生徒の活動状況について 今年は祭り囃子の演奏で平太鼓も入ったこともあり、昨年より熱心に楽しんで取り組んでいた。平太鼓への取組は良かったが、篠笛についてはやはり今年度も個人差が目立ち、息苦しさなどから吹くのをあきらめてしまう生徒が数名見られた。グループによって練習の進度に差が出てしまい、早くにできたグループが時間を持て余してしまう場面もあったので、これからの授業ではそれぞれのグループの進度に合わせた授業展開ができるように工夫する必要がある。					

様式2 - 2【実践モデル校用】

平成20・21年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業研究成果報告書

ふりがな	ももだに	たぶせいたんいせい
学校名	大阪府立桃谷高等学校多部制単位制	

校長名：岡田 正次

電話番号：06-6712-0371

学校の概要

1 学校・地域の特色

本校は通信制課程の学校として長い歴史を持っている。多部制単位制は平成7年に昼間部、翌年夜間部が設置された定時制の課程が平成17年に再編整備され、部部をもつ多様な生徒に対応する単位制高等学校である。本校には、小・中学時代にさまざまな理由で不登校となり、長期にわたる欠席を経験した生徒や、一旦他の高等学校に入学したもののなじめず、編・転入学した生徒が多数在籍している。生徒に基礎的な学力を付けると共に体験的な学習を通じて豊かな心をはぐくむことを重要な課題としている。

2 学校の概要

課程	学科	1年		2年		3年		4年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
定時制	部	6	122	5	131	4	91	3	70	18	414
	部	2	42	2	39	1	23	1	18	6	122
普通科	部	4	80	3	80	2	67	2	46	11	274
	計	12	244	10	250	7	181	6	134	35	809

研究の内容及び成果等

1 研究主題

(1) 研究主題

「伝統文化についての学習を通して、豊かな心をはぐくむ取組」

～伝統文化(和装・礼法・茶道・邦楽・落語・狂言)についての体験的な学習を通して、その基本的な知識や技能を習得するとともに、豊かな心をはぐくむ～

(2) 研究のねらい

「異文化理解の充実とともに、わが国の伝統文化への理解を深め、真の国際人として自立する力を育成する」ために、伝統文化に直接触れる学習を実施し、指導方法と教材開発についての研究を深める。

2 本年度における研究の取組概要等

(1) 取組の概要

和装・礼法・茶道・邦楽・落語・狂言を教科や総合的な学習の時間で扱った。小笠原流礼法師範、邦楽指導者、落語家、狂言師などの外部人材を活用した。

(2) 教育課程上の位置付け

和装	家庭科「きものと文化」	52時間
礼法	家庭科「ヒューマンコミュニケーション」	26時間
茶道	総合的な学習の時間	10時間
邦楽	邦楽実習	52時間
落語	芸能鑑賞	50時間
狂言	芸能鑑賞	2時間

(3) 指導の実際



邦楽部の出張演奏



家庭科「きものと文化」にて

3 成果と課題

本校では、教育課程で伝統文化の尊重をテーマとした科目が位置付けられ開講されていた。今回、この事業のモデル校に指定され、外部より落語家や三味線師を招くことができ、生徒が直に伝統文化に触れる機会を持つことができ、有意義であった。邦楽部の活動として、地域の施設にボランティア演奏に出かけたり、卒業式における卒業生のことばの中で、芸術鑑賞会のことばが触れられたり、生徒にとって伝統文化がより身近な存在となった。

また、部 家庭科「ヒューマンコミュニケーション」においては、小笠原流礼法師範を招き“日常生活の中の様々な場面でのマナーを学ぶ”をテーマに公開授業を実施し、保護者が見学できる機会も設けた。この時の様子については、部 P T A 広報誌にも掲載し、伝統文化への理解、関心を高める取組をさらに進めることができた。

教科等	家庭	学年	全	単元名	きものと文化
単元のねらい	ゆかたの製作を通して、衣服の構成、技術、被服材料の特徴などを習得させ生活へ応用する力や知恵を学ぶ。				
取り扱う伝統文化	きものの基本形と着装などに関する知識と技術				
単元の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆかた製作や着付けを学び、縫製の技術と着装の知識・技術を身につける。 ・きものの文化やTPOを学習し、生活の中で幅広く活用できる力をつける。 ・民族的衣装としてのきものを通して衣服文化を総合的に見る力をつける。 					
単元の指導計画（全52時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			教師の指導・支援、取組体制（外部人材の活用等含む）等	
2	きものの概要、ゆかた製作の準備			きものの構成と各部の名称 材料選び等についての指導	
2	きものの種類			<ul style="list-style-type: none"> ・単衣，合わせ等 ・ゆかたについて 	
34	ゆかたの製作			1) 採寸をして寸法決め 2) 布の積もり方 3) 裁断，しるし付け 4) 縫製 袖縫い 背縫い 肩当て付け おくみ付け 脇縫い すそ縫い 衿付け 袖付け 仕上げ 余り布による巾着袋の製作	
8	着装 和服でのマナー			ゆかたの着方 ゆかたの着せ方，たたみ方 帯の結び方（ちょうちょ） きものを着装し，和室での立ち居振る舞いの実習	
6	きものの歴史・きもののTPO			きもののTPOについての理解 きものの歴史を歴史的背景，気候，風土，文化などとかかわらせて学んだ。	
本事例による成果と課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆかたの構成とゆかたの名称および寸法の関係について学んだ。 ・ゆかたを反物から作成した。縫い方，縫い代の始末，くけ方など縫製に関する基本的な事項を理解させ，適切に縫製できるようになった。 ・ゆかたの着装が全員できるようになった。帯の結び方はちょうちょ結び。 ・ゆかたのたたみ方を学んだ。 ・きものの歴史，TPOを学び，日常着，および礼装について，着用目的と場所にふさわしい着装ができるように学んだ。 ・基本となる起居動作やマナーについて実習を通して理解させた。 ・古代，中世，近世，近代，現代の各時代における服飾の特徴を，歴史的背景，気候，風土，文化などとかかわらせて理解させた。 ・来年度に向けて，今年実現できなかった「柄あわせをし，型紙を作り，しるし付けを行う」ことを実現させたい。 					

様式2 - 2【実践モデル校用】

平成20・21年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業研究成果報告書

ふりがな 学校名	おおさかふりつかたのしえんがっこう 大阪府立交野支援学校
-------------	---------------------------------

校長名：藤田寿夫

准校長：大島みどり

電話番号：072-893-2445

学校の概要

1 学校・地域の特色

小学部，中学部，高等部があり，高等部には，普通課程（肢体不自由），生活課程（知的障がい）を併設した特別支援学校である。

2 学校の概要

（小学校）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
学級数	/	/	/	/	/	/	/
児童数	13	12	9	15	10	9	68

教員数47名

（中学部）

	1年	2年	3年	計
学級数	/	/	/	/
児童数	16	12	15	43

教員数30名

（高等学校）

課程	1年	2年	3年	計
普通課程	12	15	19	46
生活課程	41	32	31	104
計	53	47	50	150

教員数77名

研究の内容及び成果等

1 研究主題

(1) 研究主題

障がいのある児童・生徒が茶道を通して伝統文化に親しみ，地域との連携・協力を図る。

(2) 研究のねらい

本校は長年，高等部の総合的な学習において茶道に取り組んできた。外部講師として招聘している裏千家茶道師範に指導を仰ぎ，クラブ活動の時間や作品展などの行事において茶会を開くなどの活動に取り組んでいる。この機会に，高等部だけでなく，学校全体の活動として茶道に取り組み，茶道を通して伝統文化を学び，そこから得られる心情や相手を思いやる態度などを養うとともに，積極的に地域住民との交流の機会をもち，障がい者に対する理解を深めていく。

2 本年度における研究の取組概要等

(1) 取組の概要

内容：茶道 教科：総合的な学習の時間

放課後クラブ 生活学習

学年：小・中・高 全学年

連携：裏千家茶道淡交会 学校茶道

(2) 教育課程上の位置付け

総合的な学習の時間や生活学習で45時間の取組を実施した。

(3) 指導の実際

校内での取組

- ・高等部総合的な学習の時間，放課後クラブでの継続的な茶道の稽古を行う。
- ・小学部，中学部では生活学習の時間を利用し，お香や抹茶の独特の雰囲気を楽しむ。
- ・学校行事で茶会を開き，生徒がお点前を披露する。

校外での取組

- ・大学や高校の交流校の茶会に出席。
- ・学校茶道のつどいに参加。

地域との交流

- ・地域の老人会の方を招待して茶会を実施。今年度で2回目。



交流会茶会にて

3 成果と課題

外部から講師を招聘することで，児童・生徒が個別に正式な作法の指導を受けることができた。また，この事業によってこれまでは取組が難しかった小学部や中学部の児童・生徒にも茶道という伝統文化を楽しむ機会を持つことができた。

支援学校の児童・生徒の活動範囲は狭くなりがちで，高等部の段階においても，生活の中での様々な経験が不足している。本事業に取り組むことで，今まで経験したことのなかったことに取り組む機会（学校外での活動，交通機関の利用やお金の使い方なども含め）をもつことができ，そこから，興味や関心の幅を広げることができるということは，たいへん有意義なことである。実際に本校へ招聘している講師の茶道教室へ卒業後も通う予定の生徒もいる。卒業後の余暇の過ごし方の一つとして，伝統文化に親しみ，趣味をもつということは，卒業後の人生を豊かにするという意味で重要である。

指導事例 【実践モデル校用】 都道府県 大阪府 学校名 大阪府立交野支援学校

教科等	総合学習	学年		単元名	茶道
単元のねらい		障がいのある児童・生徒が茶道を通じて伝統文化に親しみ、地域との連携、協力を図る。			
取り扱う伝統文化		茶道			
<p>単元の概要</p> <p>本校は長年、外部講師として招聘している茶道の師範から、総合的な学習の時間や文化祭、作品展などの行事において児童・生徒が茶道の基本についての指導を受けている。昨年度、本事業で取り組んできた成果を生かし、児童・生徒が茶道を通じて日本の伝統文化を学び、そこから得られる心情や態度を養う。また地域住民との交流の場をもち、地域との連携を促進し、障がい者理解を深めていく。</p>					
単元の指導計画（全45時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			教師の指導・支援、取組体制(外部人材の活用等含む)等	
37	<p>総合的な学習の時間及び、生活学習において茶道の基本を学ぶ。(小学部・中学部・高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学部、中学部ではお点前を児童・生徒が行うことは難しいが、お香を焚いたり抹茶を味わったり、その独特の雰囲気を楽しむ。 季節ごとの茶道独特の行事に親しむ。 			<ul style="list-style-type: none"> 招聘講師からの指導。 肢体不自由の生徒などそれぞれの障がいの状況に応じたお点前の方法を工夫し、指導を行う。 	
2	<p>交流校である高校や大学と交流を行う。(文化祭でのお茶席に招待され、参加する。)</p>			<ul style="list-style-type: none"> 招聘講師からの指導。 自主通学生を対象に行い、教師が付き添う。 	
4	<p>毎年、裏千家大阪道場 玉秀庵で行われる、学校茶道のつどいに参加。幼稚園から大学までの様々な年代の同じ茶道に親しんでいる人たちと交流を持ち、本格的なお茶会を体験する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 招聘講師からの指導。 裏千家淡交会からボランティアの方(5名)が参加。生徒の着物の着付けや点て出しなどをお手伝いしていただいた。 	
2	<p>交流校や地域の人たちとのふれあい行事の中で、茶道を通しての交流を行う。(地域の老人会の方を招待して茶会を開催。作品展に於いて茶会を開催。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 着物を着て点前、お運びを行うことで、着物に親しむ機会をもつ。 			<ul style="list-style-type: none"> 招聘講師からの指導。 裏千家茶道より茶会手伝いのボランティア依頼。 自主通学生を対象に行い、教師が付き添う。 	
	<p>他教科とも連携を深め、総合的な学習活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 窯業の授業において自分たちで制作した茶碗で抹茶を味わう。 			<ul style="list-style-type: none"> 窯業の授業で茶碗を制作。制作した茶碗はお稽古だけでなく、お茶会のお客様へのプレゼントや卒業生へのお祝いの品にも使用した。 招待したお客様へのプレゼントとして木工、軽作業、窯業等の教科で生徒が制作した作品を贈った。 	
<p>本事例による成果と課題</p> <p>麻痺や過緊張のある生徒にとって、両手を使って稽古することが日常の動作の改善につながった。(設備面は知的障がい課程の生徒を対象にしたものなので、肢体不自由の生徒にとっては取組が難しい場面が多くあった。個々の実態に合わせて対応してきたが、肢体不自由の生徒が多くなると指導体制などの改善が必要。)</p> <p>日常生活指導では丁寧に取り組むことができる挨拶や日本独特の和室での礼儀作法などを学ぶことで卒業後、社会に出た際に生かすことができる。</p> <p>初釜や炉開きなど季節ごとの行事に親しむことで、季節の移り変わりを感じ、経験を豊かにすることができた。校内の活動だけでは経験できない本格的な茶室でのお茶会を体験することができた。生徒たちにとっては良い経験になり、これからの学習意欲につながった。</p> <p>本校の生徒たちの活動範囲は狭く、校外に出る機会を持つことで、交通機関の利用の仕方を学んだり、興味の幅を広げることができるなど、有意義な経験となった。</p> <p>地域の老人会の方を学校に招待しての茶会は、今年2年目ということもあり、昨年度よりも和やかな雰囲気で行うことができ、障がい者理解や支援学校の現状を理解してもらうよい機会となった。</p> <p>総合的な学習の時間の茶道を選択した高等部生徒だけでなく、小学部、中学部の児童・生徒にも伝統文化に親しむきっかけをつくることができた。</p>					
<p>* 外部に講師を依頼することで、児童・生徒が個別に正式な作法の指導を受けることができ、正しい礼儀作法やお点前を習得することができた。また、夏季休業中などに教員が稽古をつけてもらうことで、茶道の指導ができる教員を育成し、生徒へのきめ細やかな指導を行うことができた。</p>					

様式2 - 2【実践モデル校用】

平成20・21年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業研究成果報告書

ふりがな 学校名	とんだばやしりつこうようだいしょうがっこう 富田林市立向陽台小学校
-------------	--------------------------------------

校長名：木之本 正仁

電話番号：0721-29-1226

学校の概要

1 学校・地域の特色

本校は、創立20周年の新しい学校である。校区は新興住宅地が大半を占め、保護者の教育に対する関心がとりわけ高い。しかし、子どもたちは家庭・地域で伝統文化に接する機会が極めて少ないというのが実態である。この2年間、本事業においてモデル校の指定を受け、日本の良き文化に接することができたことは、子どもたちにとって大変有意義であった。

2 学校の概要（平成21年5月1日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14
児童数	52	47	52	54	80	69	10	364

研究の内容及び成果等

1 研究主題

(1) 研究主題

伝統文化の体験を通し、豊かな心と表現力を育てる。

(2) 研究のねらい

伝統文化に対する認識を深める機会を充実させ、伝統や文化を大切にしようとする態度を育てるとともに、それらを生活に生かそうとする気持ちを育てる。

2 本年度における研究の取組概要等

(1) 取組の概要

伝統文化に触れる機会を随時設定。（四季折々の生け花コーナー・百人一首・和太鼓）

放課後子ども教室（昔遊び等）

校区の老人会3団体と連携し、1年生・支援学級の児童を対象に七夕交流会を実施。

富田林三曲協会より外部講師を招いて、4年生を対象に「箏」「尺八」の鑑賞及び演奏体験学習を実施。

伝統的な日本の楽器「箏」「尺八」の演奏体験を通じ、その響きを楽しむとともに、楽器の構造や歴史についても学ぶことができた。

落語家を外部講師として招いて、5年生を対象に落語学習会を実施。日本の伝統的な話芸を楽しむと

ともに、その歴史についても学ぶことができた。

保護者・地域と連携し、全学年を対象に「もちつき大会」を実施。

(2) 教育課程上の位置付け

「箏」「尺八」体験・・・音楽（2時間）

「落語」・・・国語（2時間）

「もちつき」・・・特別活動（3時間）

「七夕交流会」・・・生活科（2時間）・
音楽（1時間）

(3) 指導の実際

4年生「箏」「尺八」体験



外部講師の指導で「さくらさくら」を演奏する児童(和室にて)

5年生「落語」



和室で落語を体験

落語「ときうどん」を楽しむ児童

全学年「もちつき」



多くの保護者・地域の方々に助けられた「もちつき大会」

3 成果と課題

日本の良き文化・伝統を引き継ぎ、誇りと自覚を持ち、国際社会で活躍できる日本人の育成をめざして、日々児童の指導に当たっている。この2年間、モデル校として指定を受け、取り組むことで、日本で生まれ現在まで引き継がれてきた伝統文化の良さ、それらを守る方々の努力と喜び、心の豊かさを学ぶことができた。また、協力いただいた地域の方々とのネットワークも広がり、学校の支援体制の強化にもつながった。指定の終わった今、この2年間の実践を生かした伝統文化の取組を、更に深めていくことが今後の課題である。

教科等	国語	学年	5年	単元名	「落語」に親しもう
単元のねらい		上方の文化について知り、「落語」に親しもう			
取り扱う伝統文化 落語					
<p>単元の概要</p> <p>上方の文化が色濃く残る「落語」を通して、上方文化の良さについて学ぶ。独特な語り口と着物姿、また講座の雰囲気を通して落語の世界にひたる。伝統的な落語の話芸を学び、自分の思いを相手にわかりやすく伝えるスキルやマナー、表現力を高める。</p>					
単元の指導計画（全2時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			教師の指導・支援、取組体制(外部人材の活用等含む)等	
1	<p>「上方落語」の歴史について学ぶ。</p> <p>服装（着物・羽織・草履）、道具（扇子・手拭い・小拍子）等について学ぶ。</p> <p>小道具の具体的な使用方法について知る。</p>			<p>江戸時代中期に、京都の初代露の五郎兵衛や大阪の初代米沢彦八が道端に舞台を設け、自作の噺を披露して銭を稼いだ「辻咄や軽口」が起源であることなどを学ばせる。</p> <p>江戸～平成に至るまでの歴史の概要説明を聞く。</p> <p>一人で複数の人物を演じるため、動きも良く男女の表現がしやすい着物が落語に最適であること等を学ばせる。</p> <p>扇子を例に取り、お箸を使ってうどんを食べる動作等を鑑賞し、「落語」に関する興味・関心を高める。</p>	
1	<p>落語を鑑賞する。（桂 しん吉 氏）演題「動物園」 その他小道具を使って、落語の練習をする。</p> <p>桂 しん吉氏の話聞く。</p> <p>「落語」を後世に伝える努力を知る。</p> <p>感想を出し合う。</p>			<p>独特な噺口調・表情・間の取り方等、落語の楽しさを体験させる。</p> <p>落語家の指導のもと、小道具を使って「落語」体験をする。</p> <p>「落語」の技術を高めるために、落語家は日夜練習に励んでいるという、プロとしての意識と努力について学ばせる。また、夢について語ってもらう。</p> <p>平成17年9月15日、上方落語協会によって戦後初の上方落語専門寄席「天満天神繁昌亭」が開設されたり、本日のように落語家がいるんな機会に「落語」を広める活動を積極的に実施するなど、「落語」を後世に伝えるための努力について知る。感想を出し合い、伝統文化の良さについて認識を深めさせる。</p> <p>日常生活の中で「笑い」が必要であり、「笑い」は、人間関係を上手く構築するとともに、周りの人を楽しく明るい気分にするにできることを知らせる。また、それによって、様々な点において、意欲向上につながることも知らせる。</p>	
<p>本事例による成果と課題</p> <p>(1) 伝統文化の教材としての有効性と児童の活動状況について</p> <p>20年度当初、伝統文化に関するアンケートを実施した。「落語をなまで聞いたことがある」に回答した児童は32.9%という低い数値であった。そこで昨年度、「落語講座」を開催したところ、児童の興味・関心が非常に高く、また今年度も希望する声が相次いだ。実際、「落語」自体が非常に面白い上、歴史、演じる工夫・努力、落語家としての夢、後世へ伝統文化として伝える努力等、児童に学ばせる教材として非常に効果的であった。</p> <p>(2) 課題について</p> <p>落語家に来ていただくことに当たり、誰かの紹介がないとなかなか来ていただけないという実情がある。また、日程調整や講座の設営等いろいろな準備が必要であった。教員で準備を進めたが、会場設営や進行等も含めて児童にもっと積極的に作業をさせることに課題を残した。また、来年度も「落語を是非やって」という声があがっているが、講師料の捻出が難しい点も課題である。</p>					